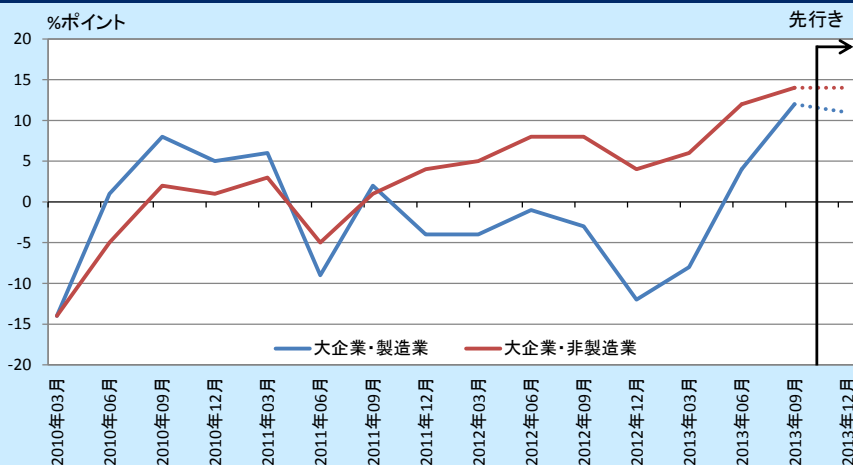


## 日本：日銀短観（2013年9月調査）

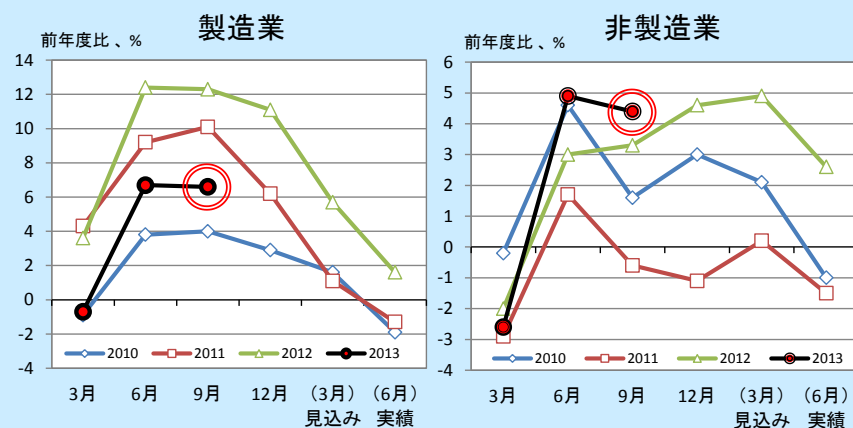
MRI Daily Economic Points  
October 1, 2013

図表 業況判断DIの推移



資料：日本銀行

図表 大企業 設備投資（含む土地投資額）の年度計画



資料：日本銀行

評価ポイント

## 今回の結果

- 日銀短観9月調査によると、大企業・製造業の業況判断DIは+12と、前回6月調査(+4)から8ポイントの大幅改善。DIの改善は三四半期連続。ただし、先行きは1ポイント悪化が見込まれている。16業種中12業種で改善し、うち、5業種では2桁改善。
- 業種別では、自動車が増11ポイントの大幅改善をしたほか、電気機械が増13ポイント、石油・石炭製品が14ポイント、生産用機械が11ポイントの改善をした。加工業種の堅調は、円安の影響が一因とみられる(想定為替レート(円/ドル) 6月調査: 91.20→9月調査: 94.45)。一方、製造業唯一の悪化業種であった金属製品は▲9ポイントの悪化を示した。ただし、先行きをみると、自動車が増14ポイントの悪化が見込まれ、全体では▲1ポイントの悪化。先行きの一段の改善には、慎重な見方がうかがえる。
- 大企業・非製造業の業況判断DIは+14と、前回調査(+12)から2ポイント改善。改善は三四半期連続であり、12業種中7業種と幅広い業種で改善した。
- 業種別では、補正予算の顕在化や住宅の駆け込み需要から建設業は+20ポイントと、比較可能な2004年3月調査以降の最高水準を更新。そのほか、物品賃貸(+11ポイント改善)、卸売(+5ポイント)が大きく改善したが、それ以外の業種は小幅の回復にとどまった。一方の悪化業種は、宿泊・飲食サービス(▲3ポイント悪化)、運輸・郵便(▲2ポイント悪化)、不動産(▲1ポイント)であった。
- 13年度の設備投資計画(含む土地投資額)は、大企業・製造業は前年度比+6.6%と前回調査(+6.7%)から若干の下方修正となり、依然として例年より低めの水準。景況感は改善したとはいえ、投資にはなお慎重姿勢を維持している模様。また、非製造業も、+4.4%と前回調査(+4.9%)から小幅な悪化。ただし、例年と比較しては高い水準を維持している。

## 基調判断と今後の流れ

- 業況判断DIは、収益環境の改善や日本経済の三四半期連続の回復などを背景として、製造業・非製造業ともに改善が続いている。
- ただし、先行きの一段の業況感改善に対しては、慎重な見方がみられた。その背景には、海外経済の不透明感や、消費増税後の消費の回復力に対する不透明感がある。だが、政府の経済対策もあり、基本的には堅調に推移することが見込まれる。